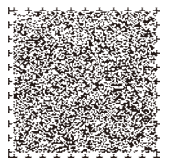


2020年に向けた東京都の取組

－大会後のレガシーを見据えて－



この冊子には、音声コード
が右ページ右下に印刷さ
れています。専用の読み
上げ装置やスマートフォ
ンアプリ等で読み取ると、
記録されている情報を音
声で聞くことができます。



「2020年に向けた東京都の取組 －大会後のレガシーを見据えて－」

2020年、東京は2度目のオリンピック・パラリンピックを迎えます。

1964年の東京大会は、新幹線や首都高速道路など、高度経済成長を牽引するレガシーを生み出しました。東京2020大会では、都市としての成熟を示すレガシーを残していくことが求められています。

本冊子は、「2020年に向けた東京都の取組－大会後のレガシーを見据えて－(PR版)」(平成27年度策定)を、「都民ファーストでつくる『新しい東京』～2020年に向けた実行プラン～」の策定など、その後の動向を踏まえて改訂したものです。

競技施設や選手村をはじめ、文化、教育、環境、経済、被災地の復興など、大会後のレガシーを見据えた8つのテーマについて東京都の取組を明らかにすることにより

◆大会を通じて価値あるレガシーを残していくための取組を、2020年に向けて着実に進めていきます

◆都民の皆様が大会に関わりを持ち、参加していただくきっかけづくりとします

3つの視点

東京に 東京2020大会を起爆剤として、成熟都市・東京をさらに発展させ、ゆとりある真に豊かな都民生活を実現します

日本へ オールジャパンで大会を成功に導き、経済の活性化や被災地復興の後押しなど、大会の効果を日本全国へ波及させます

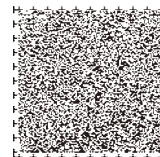
そして世界に向けて

環境先進都市の実現に向けた取組や、東京、日本の高度なテクノロジー、東京のブランド力などを、東京が日本のショーウィンドウとして世界に向けて発信します。さらに、復興へ歩む被災地の姿を世界に発信し、支援への感謝を伝えるなど、大会を機に世界との交流をさらに深めていきます

2回目のパラリンピック

パラリンピックを通じて 誰もが暮らしやすい東京を実現します

- 東京は、世界で初めて2回目の夏季パラリンピックを開催する都市として、障害のある人もない人も互いに尊重し、支えあう共生社会を実現するなど、大会で確かなレガシーを残していかなければなりません
- パラリンピックは、障害者がスポーツに親しむきっかけとなるだけでなく、ノーマライゼーションの考え方を社会に定着させ、障害者がその能力を生かし、自らの行動を決し、そして夢を追い続けることができる社会づくりにつながるなど、社会に変革をもたらす力があります
- このような大きな力を持つパラリンピックの成功がなければ、東京2020大会の成功はありません
- 大会の成功に向け、都市のバリアフリー化や心のバリアフリーの浸透など、ハード・ソフト両面での取組を全力で進め、障害の有無にかかわらず誰もが暮らしやすい東京をつくりあげていきます



8つのテーマ

1 競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重な財産として未来に引き継ぎます

p5

2 大会を機に、スポーツが日常生活にとけ込み、誰もがいきいきと豊かに暮らせる東京を実現します

p13

3 都民とともに大会を創りあげ、かけがえのない感動と記憶を残します

p17

4 大会を文化の祭典としても成功させ、世界をリードする文化都市東京を実現します

p21

5 オリンピック・パラリンピック教育を通じた人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます

p25

6 環境に配慮した持続可能な大会を通じて、豊かな都市環境を次世代に引き継いでいきます

p29

7 大会による経済効果を最大限に生かし、東京、そして日本の経済を活性化させます

p33

8 被災地との絆を次代に引き継ぎ、大会を通じて世界の人々に感謝を伝えます

p37

■「都民ファーストでつくる『新しい東京』 ～2020年に向けた実行プラン～」に沿って取組を推進

●「2020年に向けた実行プラン」（平成28年12月策定）に沿って、各テーマの取組を推進していきます。

「2020年に向けた実行プラン」との対応関係(例)

【】内は本冊子における該当テーマを示しています。

セーフシティ もっと安全、もっと安心、もっと元氣な首都・東京

- ▶ テロ・防災対策 【テーマ1】
- ・ 無電柱化の推進
- ・ 危機管理体制の構築



ダイバーシティ誰もがいきいきと生活できる、活躍できる都市・東京

- ▶ 大会競技会場の施設整備 【テーマ1】
- ▶ バリアフリー化 【テーマ1・テーマ5】
- ▶ 障害者スポーツの推進 【テーマ2】
- ▶ 大会開催気運の醸成 【テーマ3】
- ▶ ボランティア活動の推進 【テーマ3】
- ▶ オリンピック・パラリンピック教育 【テーマ5】
- ▶ 被災地復興支援 【テーマ8】



スマートシティ 世界に開かれた、環境先進都市、国際金融・経済都市・東京

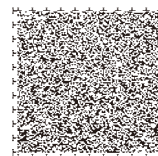
- ▶ 交通ネットワーク 【テーマ1】
- ▶ 文化プログラム 【テーマ4】
- ▶ スマートエネルギー化 【テーマ6】
- ▶ 3Rの推進 【テーマ6】
- ▶ 産業振興 【テーマ7】



■「ホストシティ Tokyo プロジェクト」の展開

●東京2020大会に向け、開催都市（ホストシティ）として、重点的に取り組むべき事業を体系化し、個々の事業を連携して進めることで、大きな相乗効果を発揮するため、全庁横断的な「ホストシティ Tokyo プロジェクト」を展開していきます。

※「2020年に向けた実行プラン」及び「ホストシティ Tokyo プロジェクト」については、P43にURL等を記載しています。



1 大会を契機に 東京のスポーツ拠点を拡充します



○競技施設を有効に活用し、都民のスポーツの場を拡大

- ・東京都が新たに整備する競技施設（新規恒久施設等）は、確実な進行管理、適切な情報公開により着実に整備していきます。
- ・新規恒久施設については、2017年4月に策定した「新規恒久施設の施設運営計画」を踏まえ、大会後も都民・国民の貴重な財産として将来にわたり有効に活用していきます。
- ・2017年11月に開業した武蔵野の森総合スポーツプラザとラグビーワールドカップ2019™の会場となる東京スタジアムを一体として多摩地域の核となるスポーツ拠点を形成します。
- ・既存スポーツ施設のバリアフリー化、区市町村のスポーツ施設の整備支援など、新たな競技施設とその他のスポーツ施設のネットワークによりスポーツ都市東京の実現に向けた基盤整備を進めます。

都が整備する競技施設



オリンピックアクアティクスセンター
※2015年10月時点の大会時イメージ図



海の森水上競技場
※2016年5月時点のイメージ図



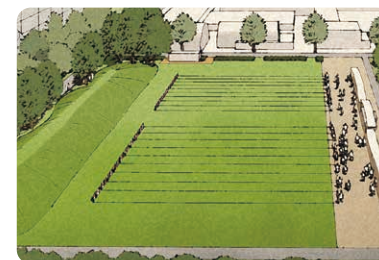
有明アリーナ
※2015年10月時点のイメージ図



カヌー・スラローム会場
※2016年5月時点のイメージ図



大井 Hockey 競技場
※2016年6月時点の大会後イメージ図



アーチェリー会場（夢の島公園）
※2017年11月時点のイメージ図



武蔵野の森総合スポーツプラザ
※2017年4月時点の写真

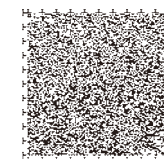


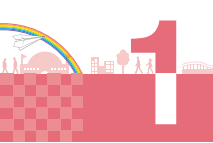
有明テニスの森
※2017年5月時点の大会後イメージ図

●武蔵野の森総合スポーツプラザは2017年11月に開業

大会後の
利用イメージ

- 競技スポーツの拠点
- スポーツ利用・観戦
- 文化・レジャー・イベント等の多目的な活用
- 公園・自然環境・レジャースポット等の施設周辺との連携
- 青少年教育の場としても活用





競技施設や選手村のレガシーを都民の貴重

な財産として未来に引き継ぎます

2 選手村を誰もがあこがれ 住んでみたいと思える まちにします



○都心に近接し、海が前面に開かれ緑につつまれた空間に
おいて、多様な人々が交流するまちが大会後に誕生

◆コンセプト

多様な人々が
交流し、快適に
暮らせるまちに



水と緑に親しみ、
憩いと安らぎが
感じられるまちに



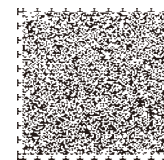
新技術の活用により、
環境に配慮し
持続可能性を
備えたまちに



- ・多様な人々が集い、快適に暮らせる、活気あふれるまちに必要な機能を導入します。
- ・道路や商業棟などにおけるサインデザインの統一、バリアフリー対応により誰もが移動しやすい環境を整備します。
- ・地域の持続的な発展に向けて、まちをつくり、人を育てるコミュニティの形成を目指します。
- ・緑が連続し、道路、住宅、水辺空間等が統一された、海に開かれた街並みを形成します。
- ・人にも環境にもやさしい交通手段を導入し、エコな移動が可能なまちを実現します。
- ・水素ステーションの設置、純水素型燃料電池の導入の検討を進め、日本初の本格的な水素供給システムを実現し、水素社会の実現に向けたモデルとします。
- ・燃料電池と蓄電池の設置等により分譲住宅棟の電力自給率を高め、災害時にも自立できるまちを実現します。
- ・エネルギーマネジメントの導入や太陽光発電の設置などによりエコなまちにします。



大会後の選手村のイメージ



※ 2015年12月時点における検討中の導入機能の例

※環状2号線(築地地区)については、大会開催時点では、地上部道路で開通

- 

4 大会に向けたバリアフリー化を推進します



○競技会場周辺等のバリアフリー化、アクセシビリティ・ガイドライン*の反映等、大会に向けてバリアフリー化を推進

- ・競技会場周辺等の都道、都立公園、鉄道駅などのバリアフリー化を推進します。
- ・アクセシビリティ・ガイドラインを東京都の競技施設整備に反映するとともに、アクセス経路等の整備を促進します。
- ・アクセシビリティ・ガイドラインの考え方をユニバーサルデザインのまちづくりの一層の推進につなげていきます。

*アクセシビリティ・ガイドライン：正式名称は「Tokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン」。組織委員会が国際パラリンピック委員会の求めに応じて策定する、ハード・ソフト両面のバリアフリー化の推進を目的とする東京2020大会用のガイドライン

バリアフリー化の推進

大会に向けたバリアフリー化の推進

- 都道等のバリアフリー化
- 鉄道路駅のホームドア整備の促進

大会後も引き続き推進

大会を契機にバリアフリーが東京全体に浸透

ユニバーサルデザインのまちづくりにつなげていく

アクセシビリティ・ガイドラインの反映

競技施設等のバリアフリー化を推進

- 東京都の整備する各会場への適用
- アクセス経路等の着実な整備に向けた普及・啓発

※心のバリアフリー・情報バリアフリーについてはP28に記載
※多言語対応についてはP34に記載



道路のバリアフリー化



駅のホームドア（都営地下鉄大江戸線）

5 安全・安心への取組を推進します



○開催都市にふさわしい都市空間を創り出すための無電柱化の推進

- ・センター・コア・エリア*内の計画幅員で完成した都道や、競技会場周辺の都道において無電柱化を推進します。
- ・臨港道路等についても無電柱化を推進します。
- ・競技会場等の周辺において、無電柱化に向けた区市の取組を促進します。



整備前

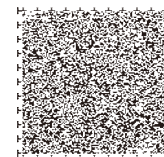


整備後

*センター・コア・エリア：おおむね首都高速中央環状線の内側エリア

○官民一体となった危機管理体制の構築

- ・東京2020大会に訪れる全ての人の安全・安心を確保するため、リスクを洗い出し、各種事態を想定した対処要領の策定と実戦的な訓練を実施します。
- ・国や組織委員会等の関係機関との連携強化や役割分担の明確化により、官民一体となった安全・安心を担う危機管理体制を構築します。
- ・大会時に都市オペレーションセンターを設置することにより、開催都市として都市機能を維持し、円滑な大会運営を支援します。
- ・こうした大会に向けた安全・安心の取組を、誰もが安心して暮らせる大会後の東京のまちづくりにつなげます。
- ・インフラツアー等を通して、東京の防災力・災害対応力を世界に発信します。



1 コラボレーションで スポーツを推進します

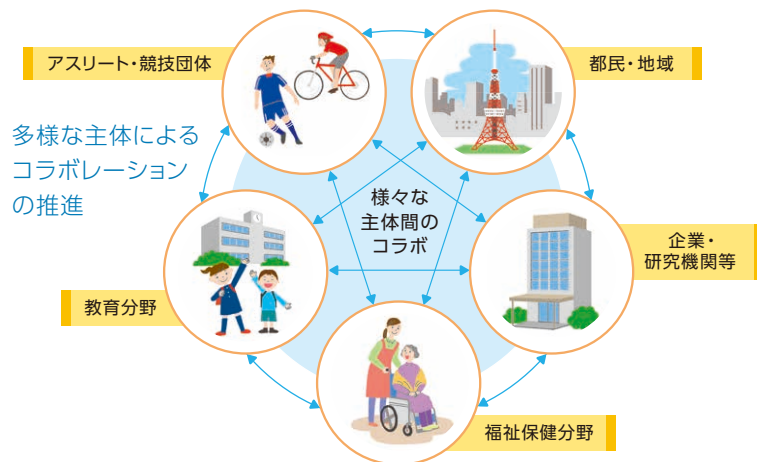


○アスリートが活躍できる環境を整備

- ・アスリートや競技団体と連携し、国際的な大会等で活躍できるアスリートの発掘・育成・強化を図ります。
- ・アスリートや企業に対して、情報提供や意識啓発を通じてアスリートの就職をサポートしていきます。

○スポーツ実施率*70%の実現

- ・地域スポーツクラブの設置拡大と活動への支援により、地域におけるスポーツ活動を活性化させていきます。
- ・スポーツ活動を推進する企業を「東京都スポーツ推進企業認定制度」により認定し、企業の取組の事例集を作成し、発信していきます。
- ・区市町村や民間団体等と連携し、生活習慣病予防や介護予防に寄与する適切な身体活動・運動等について普及啓発を行います。



*スポーツ実施率：週1回以上スポーツ（競技スポーツだけでなく、健康づくりや気分転換など目的を持った身体活動の全て）を実施する18歳以上の割合。都民のスポーツ実施率は56.3%（2016年現在）

2 東京全体に 「スポーツフィールド」を創出します



○スポーツ施設、学校をはじめ、東京の資源を最大限に活用し、身近な 場所でスポーツを楽しめる環境を整備



道路・遊歩道・公園などを
ウォーキング・ランニング・
サイクリングコースとしても活用



学校体育施設をさらに活用



東京2020大会競技会場や
既存スポーツ施設の活用



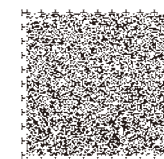
東京の自然環境を生かした
ウォータースポーツの普及



職場や駅の階段等を活用した、
日常生活における
健康づくりの推進



みんなでラジオ体操プロジェクト（都民広場）



3 障害者がスポーツに親しむための環境を整備します



ダイバーシティ

○障害者スポーツの情報発信により、パラリンピック・ムーブメントを創出

- ・パラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」などを通して、パラリンピック競技を含む障害者スポーツの面白さや選手の活躍をメディアで積極的に発信します。
- ・パラリンピアン等の協力を得て、様々な場面で障害者スポーツとパラリンピックのPRを行います。



○障害者スポーツの場を整備

- ・都立障害者スポーツセンターを改修して、機能や利便性の向上を図ります。
- ・今後の障害者スポーツ振興を見据え、既存施設の活用を含め、広域的な観点からの場の充実・強化を検討していきます。
- ・地域における障害者スポーツの拠点の一つとして、都立特別支援学校の活用を進めます。

○障害者スポーツ選手の発掘・育成・強化

- ・パラリンピック等への出場が期待される選手を「東京アスリート認定選手」として認定するなど、障害者アスリートの発掘・育成・強化に取り組んでいきます。
- ・競技団体の基盤強化や競技活動の活性化を促進していきます。
- ・国際公認大会の開催を支援し、障害者アスリートの試合機会の増加や競技団体の大会運営能力の向上を図っていきます。



みんなで観に行こう、
パラスポーツ。

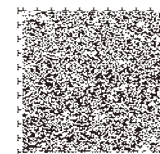
4 受動喫煙防止対策を推進します



ダイバーシティ

○受動喫煙防止対策の推進

- ・都民の健康増進の観点から、また、オリンピック・パラリンピックのホストシティとして、受動喫煙防止対策をより一層推進していきます。



1 都民の皆様とともに大会を盛り上げていきます



ダイバーシティ

○様々なプログラムを各地で展開

- ・オリンピック・パラリンピックの魅力を体感できるライブサイト*やフラッグツアー*、大会開催までのカウントダウンイベントや競技会場の見学ツアー、マスコット・公式ソング等の発表イベント、「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」など、都民の皆様に参加していただける多種多様なプログラムを組織委員会等と連携し、都内をはじめ各地で展開していきます。

○開催都市としての雰囲気醸成

- ・統一的なデザインを用いたシティドレッシング*により大会開催の祝祭感を演出するとともに、オリンピック・パラリンピックシンボル等を用いた大規模展示物を配置することで、開催気運を盛り上げ、大会後のレガシーとして残していきます。
- ・聖火リレーに多くの都民・地域が関わられるようにして、大会の感動を多くの人々と分かち合います。
- ・ラジオ体操の普及啓発やパラスポーツ応援プロジェクト「TEAM BEYOND」などスポーツを通して大会に向けた気運を高めています。
- ・東京2020参画プログラムを活用し、幅広い人々の大会関連イベント等への参加を促進します。



フラッグツアー(小笠原村)

2 「オール東京」で大会を成功に導きます



ダイバーシティ

○都内全域で都民参加の機会を提供

- ・都内各地でパラリンピックの競技体験プログラム「NO LIMITS CHALLENGE」を展開するなど、身近な地域から、パラリンピック競技を体験する機会を提供し、大会を盛り上げる気運を東京全体で創出していきます。
- ・島しょ地域に、オリンピック・パラリンピアンを派遣するなど、各地域のニーズに応じた取組を都内全域で行っていきます。

○身近な地域と連携した取組を推進

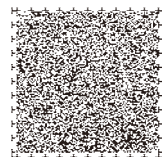
- ・東京都と区市町村が連携してオール東京体制で取組を進められるよう、事前キャンブ誘致に関する情報提供・相談体制などを充実させます。
- ・地域の取組を支援し、身近な場所でオリンピック・パラリンピックの魅力を体感できる機会や、スポーツに親しむ機会、東京を訪れる外国人旅行者へのおもてなしを学ぶ機会を提供していきます。



*ライブサイト:オリンピック・パラリンピック競技大会を生中継する臨場感あふれる大画面を設置するとともに、ステージイベントやパラリンピック競技体験など大会の興奮と感動を楽しむことのできるイベント

*フラッグツアー:リオデジャネイロ2016大会閉会式で引き継いだオリンピックフラッグ・パラリンピックフラッグを各地でお披露目するイベント

*シティドレッシング:オリンピック・パラリンピック開催都市全体を一貫性のある外観で装飾すること



3 大会を支えるボランティアを育成するとともに、ボランティア文化の定着を目指します



ダイバーシティ

○大会を支えるボランティアの育成

- ・「東京都ボランティア活動推進協議会」を通じて、企業、町会、学校等と連携するとともに、大会を支えるボランティアの育成を進めます。
- ・東京都観光ボランティアなど、大会時の都市ボランティアの中核として活躍する人材を育成していきます。
- ・年齢・性別・障害の有無等に関わらず、多くの都民がボランティアとして東京2020大会に参加できる環境を整備します。
- ・都市ボランティアを2017年度に一部前倒しをして募集し、ラグビーワールドカップ2019™で活用し、そこで得たボランティア経験、運営のノウハウ、知見等を東京2020大会につなげていきます。



東京都観光ボランティアによる街なか観光案内(イメージ)

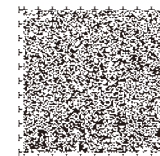
○ボランティア文化の定着に向けた取組を推進

- ・ボランティア情報の収集・発信や、ボランティアコーディネーターの充実などボランティア活動に参加しやすい環境を整備し、ボランティア活動への参加気運を高めます。
- ・企業、学校などの優れた取組を表彰するなど、ボランティア文化の定着に向けた取組を推進し、2020年度の都民のボランティア行動者率*40%の達成につなげていきます。



*ボランティア行動者率：過去1年間に、報酬を目的とせず、自分の労力・技術・時間を提供して地域社会や個人・団体の福祉増進のための活動を行った10歳以上の人の割合

*大会関連ボランティア：東京2020大会での、競技運営など大会運営に従事する大会ボランティアと、観戦・観光客への交通・観光案内に従事する都市ボランティアを合わせた総称



1 Tokyoの魅力を発信する 多彩な文化プログラムを展開します



スマートシティ

○これまでにない先進的な文化プログラムを展開

- ・国内外から注目の集まる2020年4月からの半年間に実施する東京文化プログラムを「Tokyo Tokyo FESTIVAL」と銘打ち、集大成となる文化イベントを実施するほか、2020年に向けた期間を「Road to Tokyo Tokyo FESTIVAL」として、国内外への発信と拡散力強化を図ります。
- ・都市のあらゆる空間を活用するとともに、多彩な芸術文化を、高齢者、障害者等のあらゆる人々が日常生活の中で実体験できるプログラムを実施していきます。

■ Tokyo Tokyo FESTIVAL



■ Road to Tokyo Tokyo FESTIVAL



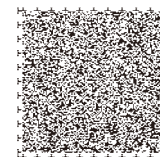
「Tokyo Tokyo FESTIVAL」に向けた具体的な取組・事業

カテゴリー	具体的な取組・事業
ブランディング・プロモーション戦略	2020年に向けて、認知強化、気運醸成を図るため、「Tokyo Tokyo FESTIVAL」に向けた期間を「Road to Tokyo Tokyo FESTIVAL」として国内外への発信と拡散力を強化
新たに展開する象徴的なプログラム	企画公募事業、場の開放事業、パリ東京文化タンデム2018*等
	ブランディング・プロモーション戦略に沿った、目玉となる新たな事業展開
民間等に対する助成事業の実施	各既存助成事業により、民間等による活動を着実に支援
	「東京文化プログラム助成」の拡充により、東京文化プログラムを重層化する『東京発の独自コンテンツ創造』を支援
東京文化プログラムの土台となるプログラム	都立文化施設における展示や公演等の実施、大規模なオペラ公演を国や地方と連携して実施、「東京キャラバン*」や「TURN*」の取組を充実
	芸術文化拠点の魅力向上、観光振興との連携、多様性の理解促進など、東京の芸術文化基盤となる取組を推進

*パリ東京文化タンデム2018:「タンデム」は、パリ市が姉妹友好都市と行う文化交流事業。2018年は、東京都及びパリ市の文化施設等において多彩なイベントを実施し、両都市の魅力を世界に幅広く発信

*東京キャラバン:多種多様なアーティストや芸術が交わることで、新たな表現が生まれるというコンセプトを掲げ、各地の野外ステージ等で、伝統文化や演劇、音楽、美術など、普段交わることのない芸術文化が融合したパフォーマンスを披露

*TURN:多様な人々の出会いと表現を生み出すアートプロジェクト。アーティスト等が福祉施設利用者などとの関係を深め、これまでにない価値観などを発見していく「交流プログラム」と、その成果を発表する「TURNフェス」の2つを主な柱として展開



2 あらゆる人が芸術文化に触れることができる環境を整備します



スマートシティ

○アール・ブリュット*等の普及推進

- ・自治体、学校、福祉施設、NPOや地域の関係者と連携して、渋谷に整備する展示や交流のための拠点などでアール・ブリュット等を普及推進します。

○芸術文化を通じて社会課題に向き合う活動を支援

- ・障害者や高齢者等の芸術文化活動のための環境整備などに取り組むアートNPO等を支援していきます。

○子供や青少年が芸術文化に主体的に関わる場や機会の創出

- ・学校、児童館、公民館等の地域の場を使った芸術文化の体験機会を創出します。
- ・都立文化施設において子供たちを対象としたワークショップを展開していきます。

○文化施設の機能を向上

- ・バリアフリー化や多言語対応、開館時間延長をはじめとする来館者サービスの向上を図ります。
- ・ポータルサイトを活用した展覧会や公演情報の集約、発信を推進します。



*アール・ブリュット:「美術教育を受けていない人などが、既成の表現法にとらわれず自由に制作した作品」をいう

3 東京の芸術文化の魅力を世界に発信します



スマートシティ

○多彩な文化拠点の魅力を向上

- ・芸術文化資源の集積や地域の個性を生かした事業を推進することで、文化拠点の魅力の向上に寄与します。
- ・地域活性化策や観光施策とも連携した取組を進めます。

○最先端技術と芸術文化の融合

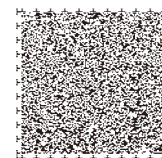
- ・コンペティションの実施など、最先端技術を活用した新たな芸術表現の発表の場を充実していきます。

○国際的な発信・交流を強化

- ・アーティスト・イン・レジデンス*による国内外のアーティスト受入や、海外の芸術文化団体・文化施設と連携した展覧会の開催、国際的な芸術文化カンファレンスの開催支援など、海外との文化交流を進めます。

○芸術文化を支える人材の育成

- ・若手芸術家を対象とした展覧会開催などにより、世界を舞台に活躍できる芸術家育成を支援します。
- ・キュレーター*やアートディレクターなど芸術文化を支える人材育成を推進します。



*アーティスト・イン・レジデンス:若手芸術家等を一定期間招へいし、創作機会の場の提供や様々なジャンルの芸術家同士の交流などを支援する事業

*キュレーター:美術館や博物館において、収集資料に関する調査研究や、展覧会の企画等を行う人のこと

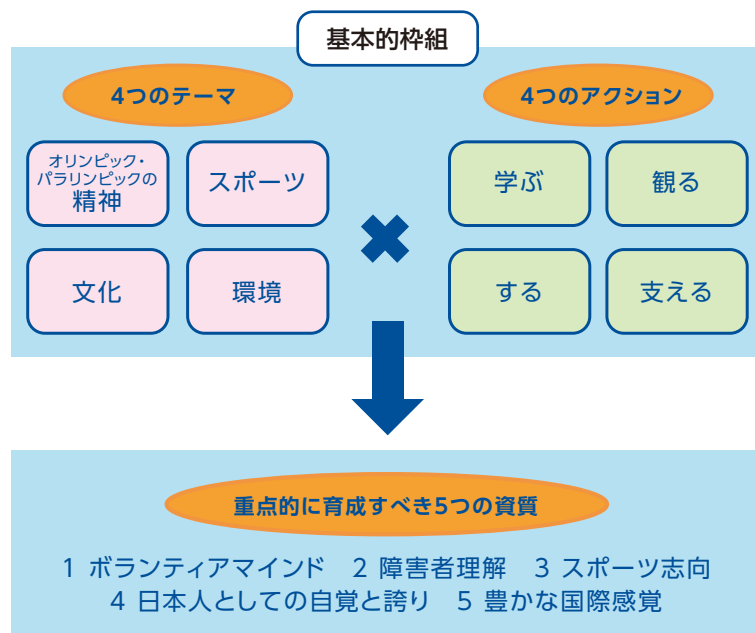
1 未来を担う人材を育て、共生社会を実現します



ダイバーシティ

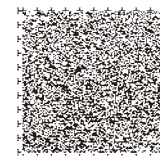
○オリンピック・パラリンピック教育の展開

- ・「ボランティアマインド」・「障害者理解」・「スポーツ志向」・「日本人としての自覚と誇り」・「豊かな国際感覚」という5つの資質を育成するために「東京ユースボランティア」・「スマイルプロジェクト」・「夢・未来プロジェクト」・「世界ともだちプロジェクト」の4つのプロジェクトを推進します。
- ・特に「ボランティアマインド」「障害者理解」「豊かな国際感覚」の育成に資する取組を各学校が自主的・継続的に進め、東京2020大会以降もレガシーとして定着していくように支援していきます。



○多様性を尊重する意識と国際感覚の醸成

- ・共生社会の実現に向けて、教育を通じた障害者への理解促進を図り、相手を思いやる態度や共助の心など、ボランティアマインドを醸成していきます。
- ・グローバル社会の中で活躍できる国際的な人材を育成するため、異文化理解と国際交流を推進し、英語力向上や日本人としての自覚と誇りを涵養する教育を展開します。





オリンピック・パラリンピック教育を通じた

2 オリンピック憲章の精神の実現に向けた取組を推進します



ダイバーシティ

○人権意識が広く浸透した社会の実現

- ・オリンピック憲章に掲げられた理念を東京のまちの隅々に行き渡らせ、意識の共有を図ります。
- ・人権尊重の意識を醸成するため、大型啓発イベント「ヒューマンライツ・フェスタ東京」を実施するとともに、啓発拠点「東京都人権プラザ」の機能を強化し一層の情報発信を行います。

3 外国人が参加・活躍できる多文化共生社会を実現します



ダイバーシティ

スマートシティ

東京で活躍する外国人をサポート

- ・東京へのビジネス展開を考えている外資系企業のビジネスパーソンなどに対し、東京における生活・ルールなどを紹介することにより、東京への進出や、生活のスタートをサポートしていきます。

東京で働く外国人やその家族が東京で安心・快適に生活するためのサポート

- ・生活情報や防災情報を多言語で一元的に提供することにより、安心して生活できる環境を整備します。

参加型・活躍型 多文化共生 社会の実現

グローバル都市にふさわしい意識を醸成するための取組を推進

- ・民間団体等と連携し、多文化共生に関する普及啓発や気運醸成に取り組めます。

様々な機関や団体と連携し、外国人を支援

- ・区市町村等と連携した外国人への生活サポートを推進します。



人材育成と、多様性を尊重する共生社会づくりを進めます

4 障害のある人もない人もお互いを尊重し、支えあう共生社会を実現します



ダイバーシティ

スマートシティ

○すべての人にやさしいユニバーサルデザインのまちづくりを推進

- ・鉄道駅・道路・建物等のバリアフリー化を推進するとともに、アクセシビリティ・ガイドラインの考え方を、すべての人にやさしいユニバーサルデザインの視点にたった福祉のまちづくりの一層の推進につなげます。

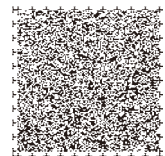
○心のバリアフリー・情報バリアフリーを推進

- ・心のバリアフリーに向けた学習等を支援します。
- ・外国の手話も含めた手話のできる都民を育成します。
- ・遠隔手話などICTを活用して遠隔手話通訳サービスを普及します。
- ・様々な広報媒体等を活用した普及啓発を推進します。

※競技会場周辺等の都道、都立公園、鉄道駅などハード面のバリアフリーについてはP11に記載
※多言語対応についてはP34に記載

○障害者のスポーツ・文化芸術活動を振興

- ・障害者スポーツの振興を図るため、普及啓発や気運醸成に取り組めます。
- ・障害者の文化芸術活動を支援するため、障害者美術展や「芸術文化による社会支援助成」を実施していきます。



1 大会を契機に、世界をリードするスマートエネルギー都市を目指します



スマートシティ

○省エネルギー対策の推進

- ・大会施設等でLED照明の導入などを行い、エネルギー利用の効率化・最適化を図ります。
- ・電気自動車などの次世代自動車の導入を支援します。
- ・キャップ&トレード制度など都内のCO₂排出量の削減に向けた取組を引き続き実施していきます。



LED電球

○再生可能エネルギーの導入拡大

- ・CO₂排出量の削減につながる太陽光発電や地中熱利用ヒートポンプなどを、大会施設等で積極的に導入していきます。

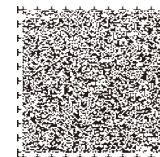


○水素エネルギーの普及

- ・水素供給システムの整備などにより選手村を水素社会の実現に向けたモデルとします。
- ・水素ステーション整備や燃料電池自動車・バスの普及など、水素社会の実現に向けた取組を推進します。



燃料電池バス(都営バス)



2 大会を契機に、クール・グリーンで快適な都市をつくります



スマートシティ

○大会に向けた暑さ対策と、快適な都市環境の実現

- ・大会に向けて、遮熱性舗装等の整備やクールエリア・クールスポットの創出を推進し、都市の熱環境を改善します。
- ・競技施設周辺等で生態系に配慮するなどの、質の高い緑を充実させます。
- ・競技施設における雨水の活用などにより、水資源の有効活用を図ります。
- ・都道の街路樹において、樹形を大きく仕立てるための計画的な剪定等を行い、夏の強い日差しを遮る木陰を確保します。
- ・打ち水等の暑さ対策の気運醸成を図っていきます。



微細ミストによる暑さ対策（東京スタジアム）

○持続可能な資源循環型都市の実現

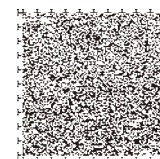
- ・大会に向けて食品ロスの削減を進めるなど、廃棄物の3R（リデュース、リユース、リサイクル）を徹底します。
- ・組織委員会の「都市鉱山からつくる!みんなのメダルプロジェクト」に協力・連携するなど、再生資源の利用を推進します。
- ・選手村において大会期間中に付加した仮設の設備や内装材などについて、他の公共施設等での転用、再利用を検討するとともに、広く募集したアイデアを生かしながら、組織委員会と連携して更なる3Rの取組を進めていきます。



メダル協力ボックス

○環境施策に関する都市間交流の推進

- ・気候変動、廃棄物、大気汚染等の分野における都市間交流や国際会議の開催等の取組を通じて、アジア都市等との知見の共有を進めます。



1 世界一のビジネス都市東京を実現します



スマートシティ

○グローバル社会に対応した国際ビジネス環境の整備

- ・大会開催都市としての注目の高まりを生かし、国際ビジネス拠点のスピーディーな整備や世界に冠たる国際金融都市の実現、外国企業等が迅速に開業できる環境の創出、外国人が快適に生活・滞在できる言葉のバリアフリーに向けた取組などを推進し、世界から資本・人材・情報が集まる世界一のビジネス都市東京を実現します。



2 東京を世界有数の観光都市にします



スマートシティ

○東京の多彩な魅力を発信

- ・アイコン・キャッチフレーズ「Tokyo Tokyo Old meets New」を活用し、東京の魅力を効果的に海外へ発信していきます。

Tokyo Tokyo Old meets New

○日本各地と連携した外国人旅行者の誘致を推進

- ・東京と日本各地とが連携して設定した観光ルート等、他の自治体等との共同プロモーションによる広域的な取組により、外国人旅行者誘致を推進します。
- ・ウェブサイトを通じて、全国の多様な魅力を外国人旅行者に向けて発信していきます。

○外国人旅行者が快適に滞在できる環境整備とおもてなし

- ・東京を訪れる外国人旅行者がまち歩きを楽しめるよう、歩行者用観光案内標識の整備や無料Wi-Fiサービスへの接続環境の向上などの取組を進めていきます。
- ・ICTを活用した自動翻訳技術など多言語対応を強化・推進します。

※競技会場周辺等の都道、都立公園、鉄道駅などハード面のバリアフリーについてはP11に記載
※心のバリアフリー・情報バリアフリーについてはP28に記載

○多摩・島しょ地域における観光振興を推進

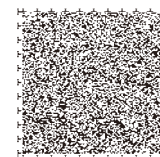
- ・民間事業者の力を活用し、外国人旅行者の興味を引く観光ルートの開発を支援します。
- ・多様なメディアを通じて、多摩・島しょの魅力や楽しみ方を国内外に広く発信していきます。



御岳山ロックガーデン(青梅市)



元町浜の湯(大島町)



3 東京のみならず日本全国に 幅広く経済効果を波及させます



○中小企業の受注機会を拡大

- ・東京2020大会開催等を契機とする様々な調達情報などを提供する「ビジネスチャンス・ナビ2020」を活用し、東京のみならず全国の中小企業の受注機会の拡大を支援します。
- ・大手企業の開発ニーズと中小企業の製品・サービスに関する情報等を相互に発信し、ビジネスのマッチングを進めます。

○新たな技術・製品・サービスの創出と世界への発信

- ・健康・医療、環境・エネルギー、危機管理など成長分野への中小企業の参入を促します。
- ・起業家やベンチャー企業への創業資金の提供や、官民一体となった創業支援環境の整備に取り組みます。
- ・大会で世界中の注目が集まる機会を生かし、中小企業の優れた技術・製品・サービスなど、東京の産業力を世界に向けて強力に発信していきます。

4 東京をはじめとする 国内産食材等の魅力を発信します



○大会時に東京・日本の食材等を活用

- ・大会時の東京をはじめとする国内産の食材を利用した食事の提供や、多摩産材など都内・国内産の木材や花きなどの大会関連施設等での活用に向けて、取組を進めます。
- ・大会を契機に国内産農林水産物をPRして、食材等の魅力を発信していきます。

○持続可能な東京の農林水産業の実現に向けた取組の推進

- ・都内産農林水産物の高付加価値化やブランド化を促進するとともに、多様な手法による担い手の確保及び育成に取り組みます。

5 様々な課題の解決に向けて テクノロジーを活用します



○東京・日本の高度なテクノロジーを世界に発信

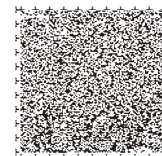
- ・先進的な水素エネルギー技術や、自動運転システムなどのITS技術、ICTを活用した自動翻訳技術、ロボット、パラスポーツ用具など、大会を通じて東京・日本のテクノロジーを世界に発信し、水素社会や渋滞のない東京の実現、超高齢社会への対応などに生かしていきます。

6 働き方改革の推進により 社会全体の生産性を高めます



○大会を契機に働き方改革を推進

- ・テレワークの普及促進に向けて、東京テレワーク推進センターにおける情報発信や、中小企業向けの体験セミナーを実施します。
- ・世界中から人々を迎える東京2020大会に向けて、企業などと連携して「時差Biz」を実施するなど、快適通勤に向けた取組を実施します。



1 スポーツの力で被災地に元気を届け、復興へ歩む姿を世界に発信します

ダイバーシティ

○スポーツの力で被災地に元気を届ける

- 被災地と東京を結ぶ「未来(あした)への道1000km縦断リレー」やアスリート派遣など、スポーツによる交流を通じて被災地に元気を届けます。
- 被災県において競技中継や各種イベントを実施するライブサイトを設置し、大会の興奮と感動を届けます。
- 被災県における事前キャンプ誘致に関する情報等を紹介していきます。

○力強く復興へ歩む姿を世界に発信

- メダリストと被災地の子どもたちの交流など、力強く復興へ歩む被災地の姿を継続的に映像に記録し、国際スポーツ大会など、様々な機会を通じて世界に発信していきます。
- 被災地を含む各地で実施したフラッグツアーの様子を世界に紹介していきます。



未来(あした)への道
1000km縦断リレー

スポーツによる
被災地支援事業



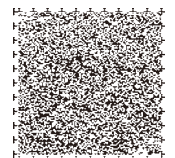
アスリート派遣事業

被災地を
元気づけ
復興を後押し

復興の軌跡を
世界へ発信



継続的な映像の記録(イメージ)



東京2020ライブサイト in 2016 -リオから東京へ-(宮城会場)

2 早期復興に向けて被災地を支援します



○被災地の復興を支援

- ・1日も早い復興の実現に向け、インフラ整備などの復興事業が実施される中、被災県からの要請を踏まえ、東京都職員を派遣して被災地を支援していきます。

○風評・風化に対する取組

- ・福島県産品の販売と観光PRを行う「ふくしま⇄東京キャンペーン」を展開するなど、風評被害払拭のための取組を進めます。
- ・被災地の震災時の状況や復興の状況を伝え、支援の継続を呼びかけるイベントの開催や、震災の記憶と被災地の復興する姿をインターネットで情報発信するなど、震災の記憶を風化させないようにします。



東日本大震災風化防止イベント「県産品」販売



都営地下鉄大江戸線「福島産直市」



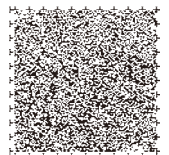
港の施工状況確認(被災地派遣職員)

○教育・文化を通じた被災地との交流

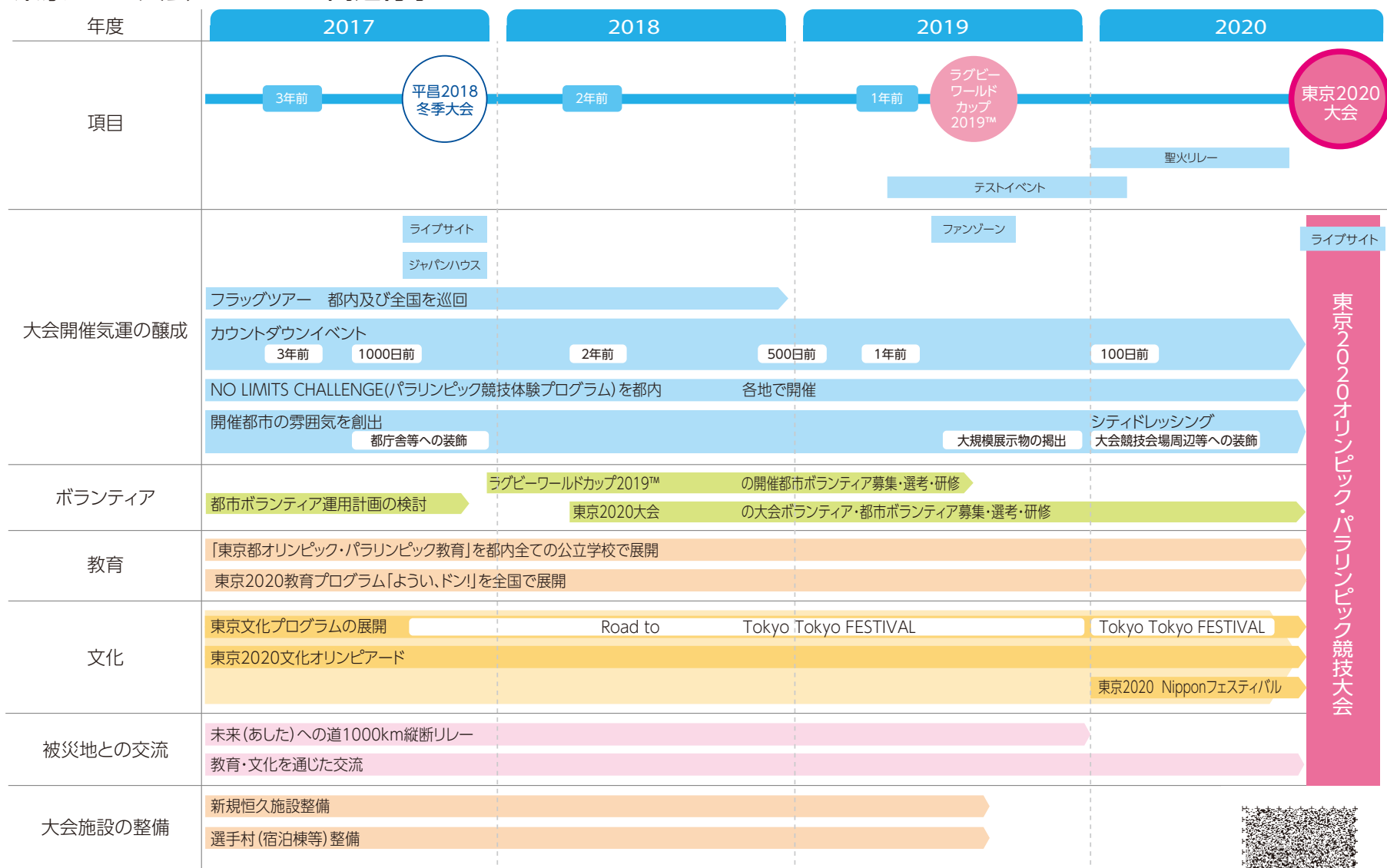
- ・NPO等と連携したアートプログラムなど被災者の参加交流型イベントを展開します。
- ・東京都が推進するオリンピック・パラリンピック教育において、被災地と連携した取組を進めていきます。



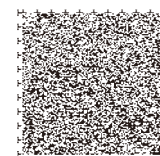
芸術文化を活用した被災地支援事業(福島県)



東京2020大会までの主な関連行事



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会



都民ファーストでつくる「新しい東京」 ～2020年に向けた実行プラン～

<https://www.seisakukikaku.metro.tokyo.jp/basic-plan/actionplan-for-2020/>



ホストシティ Tokyo プロジェクト

<http://www.seisakukikaku.metro.tokyo.jp/hostcitytokyo/index.html>



印刷物規格表第1類
印刷番号 (30) 21

2020年に向けた東京都の取組 －大会後のレガシーを見据えて－

平成30年8月発行
<https://www.2020games.metro.tokyo.jp/taikaijyunbi/torikumi/legacy/index.html>

[編集・発行]
東京都オリンピック・パラリンピック準備局
計画推進部調整課
〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話 03(5320)7809

[印刷]
株式会社アイネット
〒104-0061 東京都中央区銀座7丁目16番21号
電話 03(3549)5600

